

BFTE2011 フィジーで開催

南太平洋最大級のトレードショー
日本から旅行会社7社が参加、存在感示す

今年で17回目となるトラベル・トレードショー「BFTE (Bula Fiji Tourism Exchange) 2011」が5月17日から20日まで、フィジーで開催された。同イベントは、フィジーだけでなく、ニューカレドニアやタヒチ、パプアニューギニアなど、近隣の南太平洋各国のセラーも参加、その規模は南太平洋でも最大級の規模を誇る。今年はホテルやツアーオペ、観光局など、160のセラーと各国のバイヤー120名が参加し、過去最大規模となった。日本からの参加は7名で、2008年のエア・パシフィック航空直行便運休後最も多くの数となり、日本の存在感を示した。【取材、文章：宮原夏樹、協力：フィジー政府観光局、エア・パシフィック航空、キャセイパシフィック航空】

フィジーや南太平洋各国 ／地域のセラーが集結

今年の会場は、フィジー本島(ビチレブ)南海岸のコーラルコーストにある「ナビティ・リゾート」。オープンエアの空間に各セラーのブースが並ぶユニークな会場構成が特徴だ。アポイントは20分間で、各セラーとバイヤーが事前にリクエストし、期間中のスケジュールが決まる。

BFTEの特徴は、フィジー各地のセラーが集まる点。中には日本でまだあまり知られていないセラーも多く、新しい観光素材を知る上で、絶好の機会を提供してくれる。さらにフィジー以外に、近隣の南太平洋各国や地域のセラーが出展している点も大きなポイント。日本でもメジャーなタヒチやニューカレドニアのみならず、バヌアツやトンガ、ソロモン諸島やサモア、米領サモア、クック諸島、またニュージーランドと自由連合の関係にあるニ



午前中のティータイムに行われた
フィジー民族舞踊のデモンストレーション

ウエといった、日本ではまず会うチャンスのない担当者の話を聞くこともできる。

アポイント以外にも、午前中のティータイムでフィジーならではの民族舞踊や音楽のショーを披露するなど、フィジーらしい演出が随所に盛り込んである点がおもしろい。最終日の夜は、フィジーのフラッグシップ・キャリアであるエア・パシフィック航空の創立60周年を記念したパーティーが開かれ、大いに盛り上がった。



「BFTE2011」の会場風景

根強いフィジー人気

「隠れ家リゾート」へ毎年訪れる日本人

直行便が運休しても、フィジーの人気は根強い。特に注目したいのがリピーターの存在だ。「直行便が運休して、日本マーケットは縮小したが、依然底堅いマーケットが存在する。特に旅慣れた40代のカップルなど、毎年必ず来て頂く日本人もいる」と語るのは、「ロイヤル・ダブイ」のクリストファー・サウスウィック氏。また「ナプトゥ・スターズ・リゾート」のレアピ・ナヤカカロウ氏も「カップルや女性同士で、毎年同じ日本人が宿泊してくれる」と説明する。

両リゾートは、いわゆる小規模な高級ブティックリゾート。フィジーには、「島が丸ごとリゾートホテル」といった、こうしたタイプのリゾートが多く、フィジーの代名詞のひとつとなっている。「子供厳禁」と謳うリゾートもあり、ハネムーンやカップルに特に人気で、ハリウッドのセレブがお忍びで滞在することもしばしば。「隠れ家リゾート」とも呼ばれる所以だ。地元のオーガニック食材による美味

しい食事や、近隣の村人との触れ合い、そしてダイビングやシュノーケリングをはじめとする充実のアクティビティ、またスパ体験など、ここだけでしか体験できない素材も

多く、日本人人気の高い「隠れ家リゾート」(ナプトゥ・スターズ・リゾート)を含め、リピ

ーターとして何度も滞在する人も多い。またマナ・アイランド・リゾート&スパの松本祐司氏は、「香港への直行便就航で、パイは小さいが中国マーケットが伸びている。しかしながら東日本大震災後の今年4月の数字を見ると、中国人よりも日本人宿泊者の方が多く、ダイビング利用など、根強い人気がある」と強調する。



ホテル最新情報 Hotel Update

フィジーは、近隣のリゾート地と比べ、ホテルのインフラレベルが高い。特にナンディ国際空港から程近いデナラウ地区は、総合リゾート・エリアとして開発された地域で、リゾートホテルやゴルフ場、ショッピング施設やマリナーなど、施設が充実している。2006年から2008年にかけて、デナラウ地区では、インターナショナル・ブランドのリゾートホテルが相次いでオープン、インフラレベルを一気に引き上げた。デナラウ地区を中心に、日本人の利用も多い各ホテルの最新情報を紹介したい。

ウェスティン デナラウ アイランド リゾートアンドスパ

The Westin Denarau Island Resort & Spa

伝統的なフィジースタイルの建築を取り入れた大人のリゾート。カップルやハネムナー、熟年世代に特におすすめしたい。現在、271室ある客室の改装工事が進行中で、既に第1フェーズが完了。装いも新たに生まれ変わった客室のインテリアは、フィジーの伝統的なスタイルを取り入れた落ち着いたデザイン。ウェスティンならではの「ヘブンリーベッド」や「ヘブンリーシャワー」など、最新の設備を備えている。

また、オーストラリアのプリズペンにある人気レストラン「ムーニー」が新たにオープン。日本料理レストラン「浜町」も有名だ。スパならオリジナル・ブランドの「ヘブンリー・スパ・バイ・ウェスティン」がある。



最大級の規模で、大人限定のプールやスリル満点のウォータースライド、子供用プールなどを有する。

また客室は、1ベッドの客室と1ベッドスイートが隣り合った配置で、2室を2ベッドスイートとして利用できるので、ファミリーでの利用にも便利。全室にバスタブが付いており、WiFi接続が無料なのもうれしい。

ソフィテル・フィジー・リゾート&スパ Sofitel Fiji Resort & Spa

ここの特色は宴会・会議施設。全部で8部屋あり、最大のソフィテル・グラウンド・ボールルームは、シアター形式で最大794名、バンケットスタイルで240名、カクテルで800名と大型団体でも対応可能だ。実際に訪れた際も、オーストラリアの企業がミーティングで利用していた。客室は296室で、標準的な設備で使いやすい。

スパ施設も充実している。日本を含めアジア太平洋地区で広く展開する「マンダラ・スパ」が敷地内にあり、カップル対応可能なトリートメントルームも。フィジー伝統の建築様式を模したブレ(小屋)タイプの部屋で、リゾートムード満点だ。



朝食やアフタヌーンティー、カクテルなどが無料で楽しめる「クラブインターコンチネンタル ラウンジ」から眺めるナタンドラビーチはまた格別。専用プールも備えている。

隣接するナタンドラ・ベイ・チャンピオンシップ・ゴルフコースは、フィジー・オープンが開催されるなど、世界的にも有名なゴルフコース。全18ホールのうち15ホールが海を望む絶好のロケーション。中でも第4ホールは、ビーチがバンカーという世界唯一のホールだ。難易度の高さでも有名で、日本からも多くのゴルフ愛好者が挑戦に訪れる。

シャングリ・ラ フィジアンリゾート&スパ

Shangri-La's Fijian Resort & Spa

フィジー本島と橋で結ばれた広さ109エーカーのヤヌカ島がまるごと一つのリゾートホテル

となっている。フィジーでも老舗のリゾートホテルとして知られ、ビラタイプの豪華なオーシャンブレをはじめとして、トータル442室でさまざまなタイプの客室を用意している。

シャングリ・ラならではのスパ施設「CHIスパビレッジ」もおすすめ。トリートメントルームにそのまま滞在できるプランもある。ひとつの島がそのままひとつのリゾートなので、レンタサイクルを借りて、まずは島内を一周してみるのもおもしろいだろう。



ビラタイプの豪華な
オーシャンブレ



改装を終えたばかりのデラックス・
オーシャンビュー・ブレ

米。最大大人4名、もしくは大人2名と子供3名の滞在が可能だ。他にもハネムナーやカップルにぴったりの「ハネムーン・ブレ」やメゾネットタイプで広さ100平米ある「オーシャン・フロント・スイート」、フィジーの伝統的な建築スタイルを取り入れた「アイランド・ブレ」も人気がある。

また今年度中に150名収容可能なコンファレンスルームを新設する計画で、MICE市場をターゲットにした戦略もスタート。「Project-e」と題した環境保護活動にも力を入れており、珊瑚の養殖や亀の飼育、スイムイベントといった取り組みを通じ、環境保護の大切さを訴えている。

トコリキ・アイランド・リゾート・フィジー Tokoriki Island Resort Fiji

マヌザ諸島のアイランド・リゾートとして人気を集める高級ブティックリゾート。昨年12月に鉄板焼きバー「オイシイ」とスパ施設が新たにオープン。スパではカップルで一緒にトリートメントが受けられるカップルルームを3室設けている。34室すべてがブレ(ビラ)タイプで、うち8室はプライベート・プールが付く。

シェラトン フィジー リゾート/ シェラトンデナラウ ビラ

Sheraton Fiji Resort/Sheraton
Denarau Villas

シェラトン
フィジー
リゾート
は、2008年
に改装のた
め一旦クロ
ーズ、総額
2200 万米
ドルをかけ、一新し
た。客室はトロピカルな雰囲気を感じさせる鮮やかなデザイン。一方、シェラトンデナラウ ビラは全室キッチンや洗濯機が付いたビラタイプの宿泊施設。ソファセットやダイニング・テーブルもあり、長期滞在にも対応できる。

隣接するウェスティンとは異なり、こちらは家族連れの様子が目立つ。子供宿泊無料やさまざまなプログラムを提供するキッズクラブが無料で利用できるなど、ファミリー対応は完璧。ウェスティンにある施設と相互利用も可能だ。

ラディソン・リゾート・フィジー・ デナラウ・アイランド

Radisson Resort Fiji Denarau Island

2007年にオープンしたこのリゾートホテルの特徴は、充実したレストランとプール。レストランは寿司や刺身、天ぷらなどの日本食も提供するアジア料理の「ウォーター・コート」をはじめ、ブラジル料理のシュラスコが自慢の「ブルー」、フィジーで初めての海に足を浸かりながら食事ができる「ロマーニ・ワイ」など、ユニークなラインナップ。プールは南太平洋



シェラトンフィジーリゾートの客室

フィジー・ビーチ・リゾート&スパ マネージド・バイ・ヒルトン

Fiji Beach Resort & Spa Managed by
Hilton

ヒルトン
系列のリゾ
ートとして
2006年に
オープン。
ここの自慢
はデナラウ
のリゾート

ホテルで一番距離の長いビーチで、トータル1.5キロメートルの長さを誇る。全体的にモダンなデザインが特徴で、専用プールもある3ベッドルームタイプのペントハウスなど、客室カテゴリーもさまざま。幅広いニーズに応える。



インターコンチネンタルフィジーゴルフ リゾート&スパ

Intercontinental Fiji Golf Resort & Spa

フィジー本島で最も美しいビーチとして知られるナタンドラビーチ沿いに2009年オープン。敷地内にはサトウキビの運搬用に使った線路跡がそのまま残されているのがユニークだ。271室ある客室は63平米からと広々。フラットTVやDVDプレーヤー、iPodのドッキングステーションなど、最新の設備を提供する。テラスに設けられた大型のバスタブもユニークだ。

上質な滞在を楽しみたいのなら高台に位置する「クラブインターコンチネンタル」へ。全55室はすべてスイートタイプ。



「クラブインターコンチネンタルラウンジ」

マナ・アイランド・リゾート&スパ

Mana Island Resort & Spa - Fiji

ナンディから程近いマヌザ諸島のマナ島にある日本人にも人気の高いリゾート。島の南北にビーチがあり、アクティビティが豊富。客室数は152で、予算や目的に応じて6つのカテゴリーの中から部屋が選べる。

今年4月には「デラックス・オーシャンビュー・プレ」の改装が完了。広さは60平

飛行機に乗ったときから フィジー気分!

陽気なフィジー人のホスピタリティーに触れる
エア・パシフィック航空



エア・パシフィック航空の最大の魅力は、やはり飛行機に乗ったときから陽気なフィジー人のホスピタリティーに触れることができる点。自ら「World's Friendliest Airline」と謳うように、気さくであたたかなサービスが自慢だ。

そんなエア・パシフィック航空のホスピタリティーは、乗務員たちの「ブラ！」の挨拶ではじまる。一見大柄で怖そうな面持ちの男性乗務員も、ひとたび声をかければ満面の笑みでサービスに応じてくれる。

香港-ナンディ間では2回の食事を提供。途中にはカップラーメンなど、



エア・パシフィック航空のエコノミークラス

ヤサワ・アイランド・リゾート&スパ

Yasawa Island Resort & Spa, Fiji

マヌザ諸島の北に位置するヤサワ諸島にある高級ブティックリゾート。昨年は火災の影響で一旦クローズしていたが、今年1月より営業を再開。約300万フィジードルをかけ、メイン棟を一新した。わずか18室、ビーチに面した「ハネムーン・スイート」はプライベート・プール付きで、ハネムーンやカップルに最適。ここだけの極上な滞在を約束してくれる。

スナックのサービスもある。飲物はワインやビールを含めもちろん無料。フィジーへ着く前に、コクのあるビール「フィジー・ビター」を飲んで、一足先にフィジーのリゾート気分に入るのもいいだろう。またビジネスクラス「タンブーア・クラス」は、よりハイレベルなサービスを提供。ハネムーンなど、特別の旅行にぴったりだ。

エア・パシフィック航空でナンディ国際空港に到着すれば、民族衣装を身にまとったフィジー人の盛大な歓迎が待っている。香港経由でフィジーへ、いち早くフィジー気分を味わいたいなら、エア・パシフィック航空のフライトがお勧めだ。

羽田から1日2便

日本各地から香港へ

キャセイパシフィック航空

日本-香港間で最大の運航便数を誇るキャセイパシフィック航空。日本からは、札幌と東京(成田/羽田)、名古屋、大阪、福岡よりフライトを運航。特に今回フィジーへのアクセスとして利用した羽田-香港線は1日2便で運航する。また100%子会社の香港ドラゴン航空も福岡に乗り入れており、7月には沖縄へ乗り入れる予定。なお、エア・パシフィック航空の香港-ナンディ線とは、東京(成田/羽田)、名古屋、大阪のフライトと同日乗り継ぎができる。

同社のハブ空港である香港国際空港は、世界でも有数の規模を誇る国際空港。ハブ空港として乗り継ぎの利便性が高く、乗り継ぎ時間に立ち寄ることができる免税店や飲食店が充実しているのもうれしい。